

チェック項目	はい	いいえ	工夫している点		改善した点
			課題や改善すべき点等		
1 利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切であるか	4	100.0%			
2 職員の配置数は適切であるか	4	100.0%			
3 生活空間は、本人にわかりやすく構造化された環境になっているか、また、障害の特性に応じ、事業所の設備などは、バリアフリー化や情報伝達などの配慮が適切になされているか	4	100.0%		絵を使用した支援などで対応している。	
4 生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか、また、子どもたちの活動に合わせた空間となっているか	4	100.0%		日あたりも良く清潔である。	
5 業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参加しているか	2	50.0%	2	モニタリング時には管理者と発達支援者が保護者様と面談。目標の振り返りと新しい目標を職員に周知している。	
6 保護者等向け評価表により、保護者などに対して事業所の評価を実施するとともに、保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげているか	3	75.0%	1	H30.2月半ばにアンケートを手渡し、3/15に回収。保護者様の意向の把握に努めている。	スタッフ間で、意向について話し合っている。
7 事業所向け自己評価表及び、保護者向け自己評価表の結果を踏まえ、事業所として自己評価を行うとともに、その結果による支援の質の評価及び改善の内容を、事業所の解放やホームページなどで公開しているか	4	100.0%		H30.7にホームページを開設した。	
8 第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか	4	100.0%			
9 職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保しているか	2	50.0%	2	資格取得のため、通信教育の大学に通う職員に時間を確保している。	発達支援が通信教育で保育士試験に合格した。H30年8月。
10 アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成しているか	4	100.0%		初回アセスメントの時間も十分に取っているが、それまでも見学・体験の機会を設けて希望を聞いている。	H31年から、アセスメントシートを新しく、スタッフ全員が見て分かるようにした。
11 子どもの適応行動の状況を図るために、標準化されたアセスメントツールを使用しているか	3	75.0%	1		
12 児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援の「発達支援」「家族支援」「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか	4	100.0%		地域支援では、学校、相談支援事業所との連携の他に、隣接のクリーニング工場の職場体験がある。	
13 児童発達支援計画に沿った支援が行われているか	4	100.0%			
14 活動プログラムの立案をチームで行っているか	4	100.0%			
15 活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか	4	100.0%		季節ごとのスポーツプログラムと調理シークがある。ランニングマシン等の新しい器具を年に1回は導入している。習字の課題は毎回変わる。	
16 子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成しているか	4	100.0%		個別に対応する習字などのプログラムと集団で行うゲーム等の時間がある。	
17 支援開始前には職員間で必ず打ち合わせをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認しているか	4	100.0%			
18 支援終了後は、職員間で必ず打ち合わせをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気づいた点を共有しているか	2	50.0%	2	業務終了時に直帰になった時は、翌日業務前に話し合う。(急ぐ時はラインを活用)	
19 日々の支援に関して記録を取ることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか	4	100.0%			
20 定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断しているか	4	100.0%			
21 障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参加しているか	4	100.0%		学校・就学前施設に行っている発達支援が参加している。	
22 母子保健や子ども・子育て支援等の関係者や関係機関と連携した支援を行っているか	2	50.0%	2	相談員さんと連携している。	
23 (医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合)地域の保健、医療、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援を行っているか				なし	
24 (医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合)子どもの主治医や協力医療機関等と連絡体制を整えているか				なし	
25 移行支援として、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚園部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか	4	100.0%		就学前に〇〇園へ行き、先生に様子を聞いている。	
26 移行支援として小学校や特別支援学校(小学校部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか	4	100.0%		初回アセスメント時に通っている学校、担任の先生の名前を聞き取り、初回利用時までに先生に様子を聞いている。	
27 他の児童発達支援センターや児童発達支援事業所、発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を行っているか	2	50.0%	2	相談員さんと共にモニタリングしている。	
28 保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、障害のない子供と活動する機会があるか	3	75.0%	1	子育て中職員が子どもを連れてきやすい。利用中の子どもたち遊ぶことも多い。	職員の子供(現3児)と接している。
29 (自立支援)協議会子ども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加しているか	4	100.0%		こちらから、どこへアプローチするか分らず、手段に悩んでいる。	
30 日頃から子供の状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか	4	100.0%		連絡ノート、ライン、電話、メールを活用している。	
31 保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対して家族支援プログラム(ペアレントトレーニング等)の支援を行っているか	4	100.0%		上記の方法だけでなく訪問して連携している。保護者様の意見を傾聴し、意見を伝える信頼関係が築けている。	
32 運営規定、利用者負担などについて丁寧な説明を行っているか	4	100.0%		初回の契約時には、重要事項の説明等で1時間ほどかかる事を了承してもらって面談をしている。	
33 児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ているか	4	100.0%			
34 定期的に、保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っているか	4	100.0%			
35 父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援しているか	1	25.0%	3	新規ご利用者様は、利用されている保護者様からの紹介が多い。運動会やお茶会などのイベントの時には保護者様にも参加いただき、保護者同士の交流があった。保護者様がお退会になった時に事業所内で意見交換する機会もある。	
36 子どもや保護者からの相談や申し入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申し入れがあった場合に、迅速かつ適切に対応しているか	4	100.0%		申し入れがあった場合は、職員で共有して迅速に対応している。具体的に体験日を決めている。	
37 定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信しているか	3	75.0%	1	毎月リソンの写真版を発行している。	
38 個人情報の取り扱いに十分注意しているか	4	100.0%		鍵のかかる棚に保管。PCにパスワード設定。	
39 障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか	4	100.0%		連絡ノート、メール、ライン他、ネット上の医療サイト等を紹介している。	
40 事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を行っているか	2	50.0%	2	隣接のクリーニング工場で仕事体験を行っている。	
41 緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や保護者に周知するとともに、発生を指して訓練を実施しているか	4	100.0%		マニュアル作成とともに訓練を年に2回実施している。	
42 非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか	4	100.0%		〃	
43 事前に、服薬や予防接種、たんかん発作等の子どもの状況を把握しているか	4	100.0%		初回アセスメント時に聞き取っている。	
44 食物アレルギーのある子どもについて、医師の診断書に基づき対応がされているか	1	25.0%	3	保護者への聞き取りのみ	
45 ヒヤリット事例集を作成して事業所内で共有しているか	1	25.0%	3		
46 虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか	4	100.0%		入職時にはしているが、その後空いてしまう。	入職時の職員がそのまま動いているが、時期を決めて(毎年の春)虐待防止について話し合う機会を持つようにした。日々の業務の振り返りでも、虐待防止の意識を高めるよう話し合っている。
47 どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了承を得たうえで、児童発達支援計画に記載しているか	1	25.0%	3	どのような身体拘束もない	